
星空の恋

宝玉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

星空の恋

【Nコード】

N4336F

【作者名】

宝玉

【あらすじ】

校内宿泊体験のとき、すっごくドキドキしていたのを覚えています！その気持ちを書きつつってみました。恋していると、毎日が楽しくなってきました！

空に輝く1番星、君と見た

初めて、学校に泊まったね。

お前と一緒に見た星は、何よりも輝いていたよ。

「綺麗だね」

隣にいる君に、そつと話し掛けた。

わずかな時間だけど、お前とふざけあえて嬉しかった。

殴り合いをして

あなたと

触れ合えた。

それが、嬉しくて嬉しくて。

夜、顔が真っ赤になってた。

食事のとき

私が野菜を切ろうとしたら

「俺がやるよ」

って

私の手から野菜と包丁を奪い取った。

優しいね

そんなところ大好きだよ。

夜はカレーだった

あいつが笑ってた

私はぼんやり、星空を眺めてた

空には無数の星が輝いていて、綺麗だった

あいつは、いつものあいつに戻ったみたいだね

あの1番星、いちばん綺麗だよ

ほら、みえる？

お前に、似てるよ。

もう1度外に行って、星を見よう

それは、お前以外の他の誰にもたとえることが出来ない

それくらい、綺麗だった。

あの輝き、やっぱりお前に似てる。

だから私も、それにばかり目が行ってしまうんだ

ただ、いっしょに生活して

いっしょに笑って

いっしょにふざけあって

一緒に同じ星を見ていたかった

このまま時間が止まればいい、なんて
甘いことを考えていたね

私は知ってる お前はあの子が好きってこと

私と同じぐらいにじゃれあってた

まるで、私に見せ付けてるみたいじゃない……

私、今日が幸せだよ

一番あなたに近づけたから

まだ、思っていたい

「大好きだよ」っていえる日、ちゃんと来るから
まっすぐに見つめて、視線を合わせていたい

この気持ちに、変わりなんて無いから

絶対、あなたのことを忘れない

中学、高校、大学……社会人になっても。

次に会えたときは、星みたいに何にも変わらないで
私だけを見て笑っていて欲しい

ほら！ あの星も、笑ってるよ？

（後書き）

わゝ、最近詩ばかり！！

連載放りっぱなしですみません。

短編小説かいて、満足したら連載のほうを書くと思います！そのときは、よろしくおねがいします。

では、宝玉（作者）でしたゝ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4336f/>

星空の恋

2010年12月25日14時31分発行